

## 第1回

# 学校教育審議会専門部会 (学校の在り方・適正配置) 会議録

交野市教育委員会

1. 開 会 令和元年9月5日（木）午後4時
2. 閉 会 令和元年9月5日（木）午後5時
3. 出席委員 村橋 彰部会長、加藤 勤委員、市岡 伊佐男委員、楠田 昌弘委員、中原 祥行委員
4. 事務局 大湾 喜久男教育次長兼教育総務室長兼学校教育部長・和久田 寿樹学校規模適正化室長・竹田 和之生涯学習推進部長・内山 美智子学校教育部付部長・佐竹 利和教育総務室長代理・殿山 泰央学校規模適正化室長代理・仁木 裕美学校規模適正化室課長代理・吉野 絵美子学校規模適正化室・玉田 賢一学校規模適正化室・上野舞学校規模適正化室
5. 案件事項
  1. 交野市立第一中学校区の学校の在り方について
  2. その他

6. 議事内容  
事務局

定刻となりましたので、ただ今から、交野市立第一中学校区の学校の在り方、交野市立第三中学校区及び交野市立第四中学校区の学校の適正配置の方向性について審議する第1回の専門部会を開催いたします。

本日のこの部会の部会長が選出されるまでは、事務局において議事を進行させていただきますので、ご了解のほどよろしくお願い致します。

まず、前回欠席の委員のご紹介をいたします。村橋 彰委員です。

委員 よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、次第に沿って進行させていただきます。  
次は、次第の2、部会長の選任に移りたいと思います。交野市学

校教育審議会条例第 6 条の規定におきまして、部会に部会長を置き、部会長は所属委員の互選する委員をもってあてる、となっております。部会長を、委員のみなさまの互選により決定していただきたいのですが、いかがでしょうか。立候補や推薦はございますでしょうか。

委員 前回の委員会の流れからしまして、村橋委員にお願いしたらどうかと思うのですが。

事務局 ありがとうございます。委員の方から、村橋委員との意見がございましたが、この意見に対しまして、みなさまいかがでしょうか。

委員 異議なし

事務局 異議なしとの声をいただきましたので、村橋委員に部会長をお願いしたいと思います。では、これからの議事進行を村橋部会長にお願いいたします。

部会長 部会長ということですが、委員のみなさまのご協力がなければ、審議は進みません。今後ご苦勞をおかけすることになると思いますけれども、何卒ご尽力たまわりますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、案件 1 の交野市立第一中学校区の学校の在り方について、まず事務局から内容の説明をお願いいたします。

事務局 まず説明に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

専門部会の次第と委員名簿、

参考資料.6 かたの あしたのがっこうしんぶん

- 学適 参考資料.6-1 かたの あしたのがっこうしんぶん Vo.1
- 学適 参考資料.6-2 かたの あしたのがっこうしんぶん Vo.2

参考資料.7 第3回までの途中経過として、

- 学適 参考資料.7-1 「新設校舎参考資料」(3案)
- 学適 参考資料.7-2 「デメリット対応番号表」
- 学適 参考資料.7-3 「プランごとのデメリットの解決策(案)」
- 学適 参考資料.7-4 「新設校舎参考資料」(4案)
- 「かたの あしたのがっこう」講演会チラシ  
となっています。

前回の審議会では、これまでの学校規模の適正化の経過とこれからご審議いただく、一中校区、三中校区及び四中校区の現状と今後の進め方について説明させていただきました。

この「学校の在り方・適正配置」専門部会では、委員の皆さまに「交野市立第一中学校区の学校の在り方について」および「交野市立第三中学校区及び第四中学校区の学校適正配置の方向性について」をご検討いただきたいと考えています。

なお、前回お示しさせていただきましたスケジュールから変更がありましたので、説明させていただきます。第三・第四中学校区の適正配置の方向性について、当初は第一中学校区の学校の在り方と同時にご検討いただく予定でしたが、星田駅北地域の開発の動向が秋頃に明確になる予定となっており、当該住宅開発地域の児童生徒数の推計が第三・第四中学校区の適正配置の検討において、大きく影響することから、住宅開発の動向が明確になり、その地域の児童生徒数の推計予測等の基礎資料が整い次第、当該住宅開発地域の中学校区とあわせて、第三中学校区、第四中学校区の将来に向けた望ましい学校適正配置をご検討いただくこととなりますので、当面の間、この部会では交野小学校、長宝寺小学校、第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に施設一体型小中一貫校を設置することとなる、「第一中学校区の在り方について」をご審議いただきたいと考えています。

それでは、案件1 交野市立第一中学校区の学校の在り方について説明いたします。

第一中学校区では、すでに全学年合わせて6学級と小規模化している長宝寺小学校や、築後50年以上経過し、老朽化により施設更新の時期を迎えている校舎を有する交野小学校と第一中学校があり、学校規模、学校施設の両方の面で喫緊の課題校区となっています。

今年2月に策定した「学校規模適正化基本計画」に記載された、第一中学校区の適正配置の方向性は、交野小学校、長宝寺小学校、第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に施設一体型の小中一貫校を設置することとしており、今年度より「第一中学校区における魅力ある学校づくり事業」として、施設一体型小中一貫校の整備に向けた検討をすすめています。

現在の「第一中学校区魅力ある学校づくり事業」の進捗状況ですが、地域に開かれた施設一体型小中一貫校という、これからの新しい学校づくりに向けて、学校関係者の方や地域の方、また、様々な団体の方など、今後新しい学校に関わりのある方々からご意見をいただきながら、子どもたち、地域にとっての、よりよい学校の整備に向けて、現在、学校統合に係る課題や施設整備などの検討をすすめており、工事期間中の児童生徒の教育環境はどうするのか、仮設校舎や通学路などはどうするのか、といった課題とその解決方法を検討するための、一中校区関係者による「地域協議会」の1年1組、地域とともに小中一貫教育を実践するための施設一体型小中一貫校の整備において必要な機能を検討する「教職員協議会」の1年2組、地域と協力した学校運営の在り方を考える「みんなでやってみよう科」の1年3組の3つの意見聴取の場としてのワークショップを開催しており、これらを総称して「かたの あしたのがっこう」として、魅力ある学校づくり事業をすすめています。

1年1組地域協議会ワークショップは、7月12日に第1回、8月7日に第2回、8月29日に第3回を開催いたしましたので、その内容についてご報告させていただきます。

なお、この協議会は、保護者、地域、学校関係者等および一般公募含む、50名の方々から、交野小学校、長宝寺小学校、第一中学校の統合、施設一体型小中一貫校の整備に向けた意見聴取や新たな学校づくりに係る諸課題について、情報共有や連絡調整、意見交換を広く行っていただく場として設置しています。

7月12日に開催した地域協議会ワークショップの第1回目では、あたらしい学校づくりに向けて、これから進めていく地域協議会の話し合いで大切にしたい視点を6班に分かれて話し合っていたいただきました。各班とも概ね同じような内容となり、取りまとめたものが「大切にしたい5つの視点」になります。

学適 参考資料6-1の「かたのあしたのがっこうしんぶん Vo.1」の2ページ目をご覧ください。

大切にしたい5つの視点として、

1. 子どもたちがしっかり学ぶことができる！

学力をあげることも大切だけど、地域の自然や文化のこと、人間関係、感性も学べる学校

2. 子どもたちと地域の安全、安心を守る！

学校施設のセキュリティ、登下校時の安全を地域でも見守る、災害時には防災拠点にもなる学校

3. 地域の人たちも通える！

地域の人たちが日常的に学校に行き、子どもたちとの接点になる学校

4. 先生たちの負担を減らす！

毎日とても忙しい先生たち。地域の人材を積極的に活用する学校

5. 交野の魅力づくりにつなげる！

学校自体が交野市の魅力になること、交野の魅力を子どもたちも発信する学校

以上の5つの視点で、新しい学校づくりの話し合いを進めていくことになりました。

また、これからの新しい学校づくりには、地域との連携や協働が必要であり、これから子どもを通わせる保護者の方など、いろいろな人の意見を聞くべきではないか？との意見が多く出たことから、意見聴取の場でもある1年3組「みんなでやってみよう科」を設置し、新しい学校でやってみたいことや、活動してみたいことなどを話し合いながら進めています。

工事期間中の児童の生活環境については、大きく分けて A 案と B 案となります。学適 参考資料 7-1「新設校舎参考資料」A-1、A-2、B の 3 案がございますが、A 案は、現在の交野小学校敷地に交野小学校の児童が通学し続けながら、交野小学校に新築校舎を建設する案で、B 案は、交野小学校の児童も長宝寺小学校の児童とともに現在の長宝寺小学校に通学し、交野小学校内に新築校舎を建設する案になります。A 案の中で A-1 案は南側の現在のグラウンド部分に仮設校舎を建設し、北側に新築校舎を建設する案で、A-2 案は北側の既存校舎を使用しながら、南側の現在のグラウンド部分に新築校舎を建設する案です。

第 2 回地域協議会ワークショップまでの宿題として、工事期間中の児童が通う校舎プランとして、A-1 案、A-2 案、B 案の 3 つのプランと、各自で考えた新たな C 案、それぞれのプラン案のメリット・デメリットを考えてくることとなりました。

8月7日の第2回地域協議会ワークショップでは、A-1 案、A-2 案、B 案の3案について、それぞれのメリット・デメリットを話し合うとともに地域協議会に参加された方が各自で考えた新たなプランである C 案について各班で提案しました。

通学距離が長くなることで、子どもの安全が確保できない、騒音や振動で授業に集中できるのか、地域と連携した見守り体制作りが必要など、様々な意見が出されました。

A-1 案、A-2 案、B 案の3案の各プランのデメリットの内容を見ながら、自分たちにできるデメリットを乗り越える取組みアイデアを考えてくることを第3回地域協議会ワークショップまでの宿題としました。

8月29日の第3回では、地域協議会ワークショップの参加者から提案があった各自で考えた新たな C 案のうち、実現の可能性があるものを C 案として、A-1 案、A-2 案、B 案の他の3案と同様の資料を作成し、「デメリットを解消する方法を考える」として、各プランのデメリットごとに、どのような解決策があるのか、自分たちにもできる取組みアイデアを出し合って検討しました。

地域協議会ワークショップの第1回から第3回までを通して、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置を検討し、取りまとめの途中経過が、学適 参考資料7-2「デメリット対応番号表」、学適 参考資料7-3「プランごとのデメリットの解決策(案)」になります。こちらは A-1 案、A-2 案、B 案の3つのプラン案のメリット、デメリットと課題への対応方法について取りまとめている途中経過となります。

9月25日(水)に開催予定の次回、第4回地域協議会ワークショップでは、「デメリットを解消する方法の実施主体を考える」をテーマに検討する予定となっており、学適 参考資料7-4「新設校舎参考資料」の A-1 案、A-2 案、B 案までの3つの案と C 案も含む4つの案のデメリットと課題への対応方法の実施主体を考えます。

これまでの協議会の報告は、「かたのあしたのがっこうしんぶん Vo.1~2」を参考資料6として添付しておりますので、後程ご確認いただければと思います。

この「学校の在り方・適正配置」専門部会では、まず、第一中学

校区の学校の在り方として、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置について、A-1 案から C 案までの4案について、地域協議会ワークショップでの意見の取りまとめを参考としてご審議をお願いいたします。

案件 1 についての説明は以上となります。

部会長

ありがとうございました。第一中学校区では、交野小学校の敷地に施設一体型の小中一貫校を設置することとされており、現在「第一中学校区における魅力ある学校づくり」として整備をすすめているということです。

第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会を設置して、保護者や地域のご意見を伺いながら進めていくということで、これまでの進捗について説明がありました。

この部会では、まず第一中学校区の学校の在り方として、整備期間中の児童の学校生活環境について、交野小学校の児童の整備期間中の教育環境をどうするのか、ということ審議することだと思いますが、事務局そういうことで間違いないでしょうか。

事務局

はい。

部会長

それでは、今説明のありました事項について、何かご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

委員

C 案の一番下の「長宝寺小学校の小規模化は解消される」というのがありますが、C 案だったら、長宝寺小に行かないんですね。

事務局

長宝寺小の児童生徒もすべて一中の敷地に入るというイメージです。

委員

小学生は全部一中に集まるということですね。交野小だけではな

くて長宝寺小も一緒に移動する、ということですね。

事務局 小学生も中学生も全員です。

委員 小学校は両方ともなくなる、ということですね。

事務局 なくなるといいますか、交野小学校の敷地はそのまま工事に入ってしまうので、長宝寺小学校は残したままということになります。

委員 この案で一番工事期間が短くて費用が安いのは、この 4 案のうちでどれでしょうか。

事務局 学適 参考資料 7-4、図面の中ほどに概ねの工事期間を記載させていただいています。A-1 案であれば、概ね全体の工事期間はストレートにいきまして 4 年くらい。A-2 案は 3 年半くらいではないか。現時点での概算ですが。B 案は概ね 3 年くらいかと。C 案につきましても、敷地内の工事期間は 3 年くらいかというところですが。B 案と C 案が交野小学校の敷地内に児童がいない状態なので、一気に工事が進められるというところを加味すると、工事期間は短いのかと。ただ、B 案と C 案を考えると、仮設校舎の建設のボリュームからすると、C 案になってくると、長宝寺小学校と交野小学校の児童がすべて入る仮設校舎を建設することになるので、B 案と C 案を比べると C 案の方が工期は長くなります。

全体の工程の長さともリンクしてくるのですが、工費が最も安価になるのは B 案の建設費の部分をご覧いただくと、「工事敷地内の一連の工程がスムーズとなり、仮設校舎も最低限の面積で使用可能となるため、他の 3 案に比べて建設費が最も安価になる」ということを書かせていただいています。

部会長 よろしいでしょうか。他にどうでしょうか。

委員 例えば第一中学校に仮設を建てるとなる C 案の場合、中学生の活動も制限されると思うんですが、交野小の工期については書かれているんですけども、一中に建てた場合、グラウンドにこういったものがどのくらいの期間置かれるものなんでしょうか。

事務局 仮設校舎の階数やボリュームによってもだいぶ変動するんですけども、概ね 1 年以内には建てられるものと考えます。早ければ半年、ボリューム・工事の内容によっても差があるんですけども、概ね半年ぐらいあれば建てられるものと考えます

部会長 他にどうでしょうか。

委員 仮設校舎って、イメージ的に、説明してほしいんですが、私のイメージでは仮設＝プレハブ校舎というものなんですが、どういうものを想定しているんですか。

事務局 委員がおっしゃるような、昔の高度経済成長期、人口急増期のプレハブよりは、レベルが上がっているものと考えています。実際に学校の仮設校舎としての仕様としては遜色ないものになると考えています。事例としてお示しできるものがなかなかないんですが。

委員 例えば、2 階建てですか？

事務局 2 階建てと書かせていただいているのは、長宝寺小学校の中庭に仮設校舎を建てた場合は 2 階建てくらいのボリュームで済むのかな、と思っているところですが、C 案については地域協議会で出た意見をそのまま入れ込むとどうなるか、というところで考えると、長宝寺小学校の児童と交野小学校の児童を入れられる規模となってきますので、3 階建てと 2 階建てのこのまま、長宝寺小学校の校舎規模をそのまま一中の敷地内に落とし込むことになると考え

ます。

委員 昔のイメージを持っているから、プレハブで 3 階建てが考えられないんです。2 階建てでも弊害があるというか、2 階でちょっと動きがあったら 1 階はたまらないということが起こり得ないか、ましてやそれが 3 階建てというのは想像ができない。

事務局 先ほども説明させていただきましたように、人口急増期のプレハブ校舎とは全然スペックが違うものと考えています。といいますのも、プレハブと言いましても、以前のものとは仕様も違いますし、鉄骨造でつくるといふ部分では変わらないんですが、そういったところで生活に支障が出ないような形状は必要最低限設けていかないとはいけないとは考えているところです。

委員 すでにそういうもの、既存のものがあるって、そういうところのものを写真でも動画でもなんでもいいんですけども、様子が分かるような感じで、私が心配しているような 2 階でガンガンされた時に、1 階が授業にならないというようなことは、昔のイメージで捉えたらとんでもない話だと思うんですけども。

事務局 実際に近隣市で仮設校舎に一旦児童生徒が引っ越したうえで既存校舎を大規模に長寿命化改修をしているような事例もございますので、次回そういった資料もお示しできれば、と思います。

事務局 私もプレハブに入っていたんですけども、雨ざらしの外の廊下があったんですけども、枚方の方で見学させてもらうと、本当にしっかりした建物で、廊下も一体型の一つの建物でこれがプレハブか、というような建物でしっかりしています。

それから、市役所の第 2 別館も実際にはプレハブなんですけれども、あんな感じのもう少ししっかりしたかたちでイメージできるかな、と。2 階建てのプレハブだったんですけども、たぶん 2

階で騒いでもそんなに支障はないし、廊下歩いてもそんなに音はしなかった状態なので、かなり精工なプレハブになっているのは事実です。

部会長

委員がおっしゃられているプレハブ校舎というのは、夏は暑いし大変でしたが、枚方での建替えの時のことを思い出しているんです。以前は渡り廊下のモルタルが時々落ちるようなことがあって、本当に危なかったんです。近々で工事をしないといけないとのことで、プレハブを。子どもがプレハブの方が生活しやすいな、というくらい大丈夫なんですけれども。ところが、子どもたちの動きからしたら工事現場になるんです。落ち着かない。一步教室から出て移動する。外は工事現場で音もするというで落ち着かない。もちろん授業中はある程度制限して作業してくれていたと思うんですけれども、それにしても工事現場。1週間、2週間のことだったら本当にいいんだけど、校舎だけでも2年かかるというようなことで、それに造成なんかというと半年とかももっとかかるということで。そういう中で子どもたちを生活させるというのは、申し訳ないという気持ちで工事期間中思っていたんですけれども。

プレハブ自体は全く問題ないと思うんです。その代わり、高くつきます。そこで思ったのは、このお金で施設・設備にもっといいものが入れられるのにな、とつくづく思ったというのがその時の感想です。

委員

どの案にしてもプレハブは必要だということですね。結局 A 案にしても仮設のプレハブは作らないといけないということで。

事務局

A-2 案はプレハブなしです。ただ、長宝寺小学校は開校するまでそのままですよ、ということです。最短でも6年くらいかかる、そのまま小規模のまま進んでいくという話もあります。

先ほど部会長もおっしゃられたように、工事現場の真横で既存校舎を使って、交野小学校の児童は授業を行うという。当然その中に

はグラウンドがありませんので、いきいきランドや私部グラウンドなど近隣の運動施設を使うために移動しなければならない、ということもあります。

部会長

中学校がもしそこで授業をしながら工事ということになると、部活や体育の授業もそうでしたけれども、他のところを探さないといけないということになってくるんです。それはすごく子どもたちにかわいそうな思いをさせました。移動だけでも時間がかかったりして、場所を探すのももちろん苦労したんですけども、実際に決めて活動するときも移動するコース、事故の面や安全面にも配慮しましたし、子どもたちも大変な思いをさせたと思います。

他にどうでしょうか。

委員

もし C 案になったら、小中一貫になるプレ的な簡単なイメージは見られる、ということですね。交野小・長宝寺小が中学校で一緒になるという感じなんで、将来的なイメージは C 案に近いということですね。

カリキュラムとかではないけれども、児童たちが生活するという、中学生がいて小学生も交野小と長宝寺小から集まって、という出来上がりのかたちはそういうことなんですよね。それが交野小にできるのが、一時的に一中でそういうのをつくっていくということですね。

事務局

ただ、既存の校舎に仮設校舎で、これからの小中一貫教育に対応した環境として望ましいかたちに整備できるかという部分を含めて考えると、やはり新設校舎が。新設校舎はそれを目指すんですけども、第一中学校の校舎自体中学校としての機能しか持ち合わせていないという部分もありますので、完全にプレというかたちがとれるかというのは疑問な部分もあります。

委員

イメージ的な部分でということ。

交野小と一中の距離はそんなに離れてないんですかね。

事務局                    そうですね。

委員                      長宝寺小の子が交野小に通うのとそんなに変わらないということですね。通学路のイメージはつけられるということですか。

事務局                    そうですね、つけやすいかもしれないです。

委員                      逆に、交野小の子が長宝寺小に行くというのは、将来的にそういう構造をとることはない、ということですね。どちらかということ、長宝寺小の子が交野小寄りに通学してくるというのが、将来的にはイメージがあるんですよ。

事務局                    将来的には交野小学校敷地に全ての児童が通うこととなりますし。

委員                      交野小を越えて一中に通うということですよ。一中に行くんだったら、長宝寺小からだったら、交野小を越えてから一中までの通学ルートを考えないといけないということですよ。

事務局                    そうですね、南北方向でいうとそうなります。

委員                      児童が小学校に行くんだったら、施設とかトイレにしても、廊下の感じとか教室の感じでもいいんだけど、小学校の子が今の中学校に行ってそこでぱっと学習するとなると、基準が全然違うわけですよ。新しく入学して 1 年生の時から中学生の学校に入るといのは違和感が相当あるんじゃないかと。

事務局                    学校規模適正化基本計画で、32 ページ・33 ページご覧いただくと、一中校区の学校施設の諸元表を載せさせていただいて、現時

点での敷地の大きさだとか校舎の大きさなんかを載せさせていただいているんですけども、確かに、第一中学校というのはこの3校の中で一番敷地が狭い、約 16,700 m<sup>2</sup>しかございません。ですので、このグラウンドにプレハブ校舎を建てるとなると、当然グラウンド確保はできません。かつ、B 案になってきますと、小学校どうしの統合しかしないので、不足分の教室分であるとか、放課後児童会の分の仮設校舎は中庭に建設すれば、それ以外の部分についてはすべて残して入るということは可能なんですけれども、先ほど委員がおっしゃられたように、既存の第一中学校の敷地で、一番狭いところに仮設校舎を持ってくるということに対する、困難とまでは言わないですけども、いろいろな配慮していかなければならない部分がかかり出てくるのかな、というのを感じているところです。

部会長           C 案になったとき、グラウンドやプールがいきいきランドや私部グラウンドを使用と、資料にはあがっているんですけども、実際に使用できますか。

事務局           平日の昼間、月曜から金曜の午前中であったり昼間であれば、ある程度空いているスペースなんかは使えるのかな、というところはあるんですけども。小中学生、全校生徒に仮設の校舎と既存の校舎、近隣の公共施設を使うということについてはかなり配慮が必要になってくるかな、と思います。

部会長           特に部活動なんかは非常にやりにくいと、現実問題ちょっとしんどいかな、と思うんですが。

事務局           A 案から C 案までのメリット・デメリットと解決策というのはこれから地域協議会の中で出し合って話をしていくんですけども、先ほどの説明でもございましたように、学適 参考資料 7-2 「デメリット番号対応表」というのがありまして、こちらは事務局

からお示しさせてもらった案に対するメリット・デメリットとその解決策をどうするのかというのが学適 参考資料 7-3 になっています。この話し合いの途中で C 案というプランのご提案がありましたので、こちらを急遽作らせていただいたところです。

まだ取りまとめの途中の段階ですので、デメリットをどうするかというのは、C 案については言及させていただいてはいたしませんけれども、デメリットの解決策で朱書きの部分は、地域の方々と一緒に努力することでなんとか解決できるのではないかと、というところが、通学距離が長くなったりすることに対する見守りの強化であるとか、あいさつ・声かけ運動を取り入れていくことであるとか、各地区輪番制で見守り隊を結成するであるとか、通学路の分岐点にボランティアを配置するとかであるとか、何か自分たちで解決できることはないか、という部分を話し合っていた中で出てきたものが朱書きの部分になります。

ですので、C 案につきましても、一定こういったかたちで課題やデメリットの解決策なんかをとりまとめたものをお示しさせていただく中で、この 4 案でどれが望ましいのかというのをご審議いただけたらと考えているところです。

委員

朱書きの部分は、あくまでも地域協議会の方で、主体的というか、地域協議会の中で具体的に解決するために出された内容というふうに理解したらいいんですね。まさか事務局から提案したわけではないですね。

事務局

はい。そうではないです。全く白紙の状態、デメリットは、例えば通学距離が長くなるというものに対してさらに掘り下げて、じゃあ見守りを強化しないといけない、じゃあ安全な通学路は、というところまで掘り下げたうえでそれに対してどういう解決策があるのかというのを、地域協議会のみなさんで意見交換していただいた中でとりまとめしている最中です。それが、この一覧に記載しているものです。

委員                    やっぱりね、いろんなほとんどの校区、小学校区にあるんだと思うんですけども、見守り隊というのは、まったくのボランティアでしょ。どこに属して見守り隊が活動されているのかというのは様々でしょうけれども、一定の時刻になれば、一定の時間その場所に立って、子どもの安全確保に奔走しておられるわけです。私も目の前で見えますけれども。そういうことを、あえて聞いたのは、まさか事務局提案ではないだろうか、という。ボランティア先にありきの話で、それをはなから利用するというのはとんでもない話だから、だから地域協議会からの具体的な提案事項かというのをあえて聞いているのはそこなんです。

事務局                    こちらの解決策の案につきましては、事務局が提示したものでもなんでもなくて、みなさんで話し合っていて、どういった解決策があるのかというところを、意見交換していただきながら出していたというところなんです。

委員                    B案で具体的に出てくるとなったら、校舎の中に、ランチルームは設定してあるんですか。交野市の教育委員会では、特別教室のひとつとしてランチルームは設定しているんですか。

事務局                    しています。現時点で空いている教室なんかも改修して、ランチルームは各学校に設定しています。

委員                    実際は多目的ルームとしていろんな活用をしているということですよ。まさかランチルームで給食を食べているということはしてないですよ。

事務局                    学校の実態は各校によって変わってくると思うんですけども、様々な多目的な使用方法をされていると思います。



ういう環境になれば、見守りもしっかりやっていくということも、地域ではやぶさかではないんですけれども。

今全体を考えたら交野小学校をあけないといけないということで、それは一中より長宝寺小の仮設の分だけで、それがこの案ではないんですか。

事務局

今委員がおっしゃられていたのは、第一中学校は築後 59 年経ってる校舎を有していて、交野小学校は築後 55 年の校舎を有している、と。施設老朽化の観点からいくと、一中と交野小というのは確かに少し不利な部分があります。ただ、長宝寺小学校となりますと、築後 44 年なので、ある一定の手入れをしたり、仮設校舎を必要な部分だけ、放課後児童会であるとか、そういう部分をつくるというのは、経済的なところを考えると高いのかな、と考えますが、それによって、デメリットと言いますか、通学距離が伸びる地域も多くございますので、その対応方法についてはやはりみなさんで解決策についても考えていかないといけないかと。

何がいいのかというところは、A-1 案、A-2 案、B 案、C 案の様々な出てきた内容を同じテーブルの上あげさせていただいて、みなさんでご議論の中で解決策を考え、最終的には教育委員会で決定していくというプロセスとなっています。

委員

今日の部会のテーマは、4 案のうち工事期間中にどの案が一番適正かということですので。たとえば、一番交野小学校をあけるということを前提に考えたら、長宝寺小に行って、中学校はそのまま、長宝寺小学校に行ってる子もそのまま、交野小学校の子どもの通学距離にデメリットがある部分をどう解決するかということになるので。これは、学習環境というのはそれほど、プレハブが今までみたいなプレハブではないということであれば、今は学級数が多いから、プレハブにしても相当な建設費がかかると思うんですけどね。とにかく一貫校を優先的に工期を短くやっていくということであれば、そういうことも考えられるかな、ということも今考えてい

ましたけどね。

部会長

何を一番に考えていくかということですね。一貫教育は交野市では進んでいる、動いているわけで、建物が一体型であれ分離型であれ、それは関係なく、ただ、どこで主体的にやるかという子どもたちの教育環境を整備期間中にどうするかということだと思うので、そのところは建物の工事部門と一貫教育がまた平行してやっていけると。

今、委員がおっしゃったような工事手法で一番工期も短く、安全面も含めてどうしていくのかというあたりで、方向性を定めていったらいいな、と思うんですけども。

委員

小学生どうしだったら、クラスが増えたら、例えば19学級が一緒にやれば、一貫校になったときに9年間のクラスというか、生徒数がものすごく増えてくる中で、ワンクッションとして、前から大きい規模の小学校でクラス替えもあったり、3年間の間に体験することが将来に生きてくるかな、と思うので、あまり一中の方にすべての児童生徒が集まってしまうというのは、9年間の成長の過程からいうと、子どもたちも戸惑うかな、というのはあるんです。

今資料を見せてもらって率直に思ったことを言っているから、不適切なところもあると思うんで、わからないんですけども。

部会長

他にどうでしょうか。

委員

B案という場合、学校規模適正化基本計画の34ページ、35ページを見させてもらっていると、青山や向井田の子どもが遠くなるわけですね、長宝寺小に通うと。実際これは現在どれくらいの児童がいるんですか。交野小に前から行っている子の中で、長宝寺小になったら青山、向井田の子の通学が大変だということが、交野小の大半の子なのか、一部の子たちなのか、それによってデメリットの部分の学適 参考資料7-3にあるような解決策というのも、で

きる範疇は増えるのかな、と思うんですけども。

事務局

地区別でお示しできる資料は作成していないんですけども、通学距離が確かに長くなるのではないかと、という話ですけども、今現在通っている交野小学校までの通学距離に比べると長くなる地域は必ず出てきます。ただ、交野市の学校規模適正化基本方針で定めた 2km を基本とし、3km を許容範囲とするこの範囲内ですべて収まるものと考えています。

実際にある地域を見てみますと、いろいろと迂回をすると距離は長くなってしまったりするんですが、直線距離に近いところでいきますと、概ね 2km 以内でおさまってくるのではないかと。図上の話になるんですけども。

委員

教育の問題もあるんでしょうけど、ここに出てきている、通学環境が変わるとか、下校時の安全確保という点で、たくさん見守らないといけないということになると、地域の方とかボランティアで、とおっしゃっていただいていますけれども、負担というのはものすごいだろうな、と思うんです。それが数がそんなにたくさんでないのであれば、連携を取りながらカバーできる程度であれば B 案をどんどんすすめてもいいのかな、と思ったりしています。それが、ほんとにたくさんのご家庭も行ってしまおうのであれば、それはそれで大変なのかと思います。

部会長

人数は次回までに調べてもらって。

委員

子どもの見守りは、校区福祉委員会が、小学校区ごとにある程度組んでいますよね。例えば、交野小学校区福祉委員会は自分たちの児童が長宝寺小の校区に入るまではきちっと見守るということではできると思います。ただ、校区をまたがって、例えば、交野小校区の人が長宝寺小校区まで入り込んで、見守るというのはなかなかコミュニケーションからいうと難しいところがあって、校区福祉委員

会が合体して地区委員さんが合体して仲良く全体で見守るというコミュニケーションができれば素晴らしいものができて、一貫校になってもそのへんの前段としてはいいタイミングになると思うんですけれどもね。

事務局

委員がおっしゃっていただいた部分についても、地域協議会の中で触れていまして、「児童見守り隊を各地区で輪番制で結成する」というのが、これが地区ごとで、ここからここまでがこの地区の当番さんが出てきて、次の地区に子どもたちをリレー方式で集団登校の前後につく、というようなやり方や、トレーニングパトロールの実施の中で、一中の運動部がクラブのトレーニングも兼ねて下校中の通学路を走るなんていうアイデアを出されておられた方もいらっしゃると思いますので、いろいろなやり方はあるかと考えています。

委員

ただ今、この4案のうちどれがいいですか、という問いかけに対して、今の中で想定していない部分が出てきたときにまたちょっと具合悪いかもしれないですね。例えば4案のうち学校整備中にはどの案が適しているかということは今討議している中で、違う方がいいと思うけど、と言うのも、まだ4つの案ではデメリットとか協議会の方ではやられてないのにそれを新たに考えるというのはちょっとしんどいかもしれないですね。A-3案とか。

部会長

今日は各委員の意見を出してもらおうというところで。

委員

ほんとに先のことを考えると、一番望ましいのは、見守り隊を交野小学校区の人と長宝寺小学校区の人が合体してひとつに一本化したうえで見守り隊を結成する。それがゆくゆくも有効活用できるようになれば一番望ましいと思うんです。課題は、それがすんなりいくか、ということです。そういうのを一気に乗り越えないと、先を見越して一体化しなければどうしようもないじゃないか、というところで、ほんとにすぐスタートできるかというのは時間がかかる

だろうな、という気はするんです。

委員

小中一貫校になると、PTA 活動とかいろんなものが一体化して校区も、星田の場合だと星のまち学園で、先生方も交流されているし、全体がそういう一貫校になったらそういうことも大切ですね。その前兆としては、校区いっしょに活動しましょうか、という。

今の現状では私は 3 つの校区に行ってるんですけども、やっぱり委員を選ぶにしても何をするにしても、地域の委員が出てこられるのが、自治会とかに行っているのも、ものすごく地域性がある、伝統のあるようなきちっとやっているところもあれば、なかなかそこまでいかないというようなところもあるので、そのへんは一貫校がすすむ時にコミュニティも相当やっぱり協議していかないといけないと思います。

一緒に仲良く、子どもを見守るといいう目的は一緒だから、このエリアに住んでいるからあとは頼むよ、というのではなく、交互にやっていきましょうか、とか、下校のときは私のところがやります、とかなればいいんですけどね。

部会長

学校というのは、地域の力を借りなかったら運営がしんどいです。本当に。

人数わかりましたか。

事務局

今現在、交野小学校 554 名の児童に対して、向井田地区が 63 名、青山地区が 27 名、私部南地区が 66 名、私部西地区が 82 名です。

部会長

距離が長くなるのは、青山地区ですか。

事務局

そうですね、青山地区、向井田地区、私部南地区です。私部西地区は位置によっても変わるんですけども、東に通学するか北に通学するかで、ほぼ距離は変わらないのではないかと考えています。

私部西のコーナンあたりからですと、今すでに 1.6km から 1.7km を通っておられるので、向きが変わるようなかたちです。

近くなるところもありますので、一概にすべてが長くなるというわけではないです。

部会長 地域でしっかりタッグを組んで子どもをしっかり見守る、ということをお願いするというあたりですね。

委員 私も B 案が一番影響を受ける範囲も限られていていいのかな、と思います。

あとは距離だけではなくて、道の環境が関わってくると思うので、直線距離で考えるより、安全なルートというのが必要になってくると思うので、そのへんも考えて。

部会長 そうですね。交通量の多いところとか。

委員 危険な交差点や交通量の多いところなんかは避けないといけないので。

委員 交野小学校の児童が長宝寺小学校という学校を理解するには、例えば 1 年、2 年、3 年と通ったら共通の話題ができるじゃないですか。この木はどうだ、あそこのクラブの部屋はどうだ、とか、全然行ったことのない人が一緒になったら間取りもわからないし、相手方の小学校のことを言っても全然わからない。長宝寺小学校の子たちは交野小学校を体験してないんですけれども、工事中のところに行くというのもおかしいので。子どもたちも一緒にやれば仲良くするんじゃないかな、というのはあると思います。

部会長 ありがとうございます。ある程度意見を出していただいたということで、案件 1 の交野市立第一中学校区の在り方につきましては、これまでとさせていただきたいと思います。

委員 よろしいでしょうか。

部会長 はい、どうぞ。

委員 さっき私部西地区も出てきたんですけれども、校区をどうするかによって、うちは四中校区なのでどうしても、私部の校区編成とかは全く関係なく、ということですか。

事務局 それらもすべて昨年度末までに加味したうえで、校区変更と小学校どうしの統合、小中学校の統合の考えられるすべてのプランを一中校区から四中校区まで検討した結果、一中校区については、施設一体型小中一貫校で新しい教育環境を目指すということで、設置するというで決定しているものなので、交野小学校敷地に一体型一貫校を整備するのは決定ということなのです。

事務局 校区については、地区と校区が一致していないところがあるのでご審議お願いするんですけれども、今回はこの教育環境は早急に決めないといけないことなので、まずこれを審議いただいて、一中校区については、来年度くらいになると思うんですけれども、例えば郡津 1 丁目が少し長宝寺小学校に通っておられる部分がありますが、大部分は郡津小学校に通っておられるという、そのあたりの微妙な地区の境界については、改めて来年度以降にご審議願いたいと考えております。

まずは工事期間中の教育環境についてご審議頂きたいと思えます。

部会長 次に案件 2 のその他についてなんですけれども、委員のみなさま、あるいは事務局から何かありますでしょうか。

事務局 案件 2 はお知らせになります。

魅力ある学校づくり事業では、10月6日（日）の午後1時半から「かたのあしたのがっこう」講演会の開催を予定しております。お手元にお配りしております、水色A4サイズの「かたのあしたのがっこう講演会」のチラシをご覧ください。

第1部は、京都市立凌風小中学校の岩佐学園長、大阪市立大学大学院工学研究科の横山教授、株式会社 studio-L 代表でコミュニティデザイナーの山崎氏による「これからの教育、これからの学校、これからの地域コミュニティ」これらを題材にしました、各方面の専門の方々による、小中一貫教育の取組みの内容や、地域に開放される学校施設について、また実際に地域と連携した取組みを行っている事例などの紹介などをお話しいたします。

第2部は、第1部の登壇者と本市の北田教育長と、「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」の会員1名を含んだ5名で本市におけるこれからの学校と地域づくり、地域との関わりについてを話し合っています。

また、講演会終了後に、第2回目の1年3組「みんなでやってみよう科」の開催も予定しております。

説明は以上となります。

部会長

ありがとうございます。これですべての案件が終了しました。

次回の専門部会は10月8日（火）16時からということで、よろしく願いいたします。

それでは、本日の部会はこれにて終了とさせていただきます。忌憚のないご意見たくさんありがとうございました。